学校法人　青山学院

2022 年度　事業計画書

Aoyama Gakuin since 1874

目次

「青山学院・新経営宣言」の概要・・2
「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
「学校法人青山学院 中長期計画」の概要・・・4

各設置学校及び学院の事業計画
Ⅰ．国際戦略発展のための AOYAMA VISION「4 Challenges」及び基盤整備・・・・・・・5
1. 世界と未来を拓く教育・・・6
2. 世界をリードする研究・・11
3. 世界が求める社会貢献・・13
4. 世界に誇る知的インフラ及び基盤整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

Ⅱ．新経営宣言の実現・・・16
1. 万代基金の設立による財政基盤の充実・整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

Ⅲ．その他の事業計画・・・16

はじめに

この 2 年間は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中の人が今まで経験したことのない事態に遭遇し、不安のなか試行錯誤を続け、希望を見出そうと奮闘した日々でした。青山学院も、教育・研究機関としての使命を果たしていくために、オンライン授業の導入及び ICT 環境の整備、キャンパス内における感染対策の徹底、孤立した学生に対する財政面での支援や心のケア等、安心して学びと研究を継続できるようサポートを行ってきました。

ウィズコロナの時代を迎える今、コロナ禍で日常生活が大きく変容し、分断された社会を、誰一人取り残されることのない平和で持続可能なより良い社会へと導くことが求められています。青山学院も社会の一員として、「愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間」の育成を謳った教育方針のもと、AOYAMA VISION 及び中長期計画に基づく取組を着実に実行し、これからもより良い社会の実現に貢献していきます。

本書では、その実現に向けた各設置学校の教育・研究等の取組と、それらを支える学院の取組について、2022 年度の計画を掲載しています。

「青山学院・新経営宣言」　～Be the Difference～

2017 年 11 月に発表した「青山学院・新経営宣言」は、少子化、学校間競争の激化、グローバル化といった学校を取り巻く環境の変化に対応するための経営戦略の基本フレームであり、経営発展モデル構想を示したものです。そして 、“Be the Difference”は、「私たちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています。」（新約聖書 ローマの信徒への手紙第 12 章 6 節）と「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから」「その賜物を用いて互いに仕えなさい。」（新約聖書ペトロの手紙（一）第 4 章 10 節）とから導かれた経営スローガンです。

この経営スローガンは、「地の塩、世の光」というスクール・モットーとともに青山学院を支える価値観であり、学院に係わる一人ひとりの個性や各設置学校の独自性といった多様な価値を尊重し、幼稚園から大学院までを擁する総合学園として、時代と社会が求める世界に羽ばたくサーバント・リーダーの育成を目指すものです。

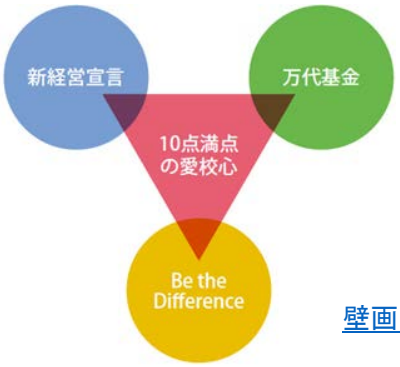
より良い教育・研究を実践していくには学院の財政基盤の安定が欠かせません。志ある若者の経済支援に心を砕いた万代順四郎氏 *1の遺志を受け継いで、奨学金や質の高い教育・研究を行うための資金を充実させるため、万代氏の名前を冠した「万代基金 *2」を設立しました。本基金の目標金額は、1,000 億円です。

この「万代基金」を支えるのは、校友、在校生、保護者等の青山学院に係わる全ての方の愛校心です。これらの方々から「10 点満点の愛校心 *3」の評価を頂くに値する、魅力あふれる学院として、青山学院はこれからも成長・発展を続けます。

Be the DifferenNce

Each of us can make the world a better place

“世界は一人ひとりの力で変えられる”



4 つの基本戦略

壁画「Be the Difference アート」はこちら

＊1）青山学院高等科卒業。三井銀行取締役会長、帝国銀行取締役頭取などを務め、戦後はソニー株式会社創立期の取締役会長や日本経済団体連合会常任理事として活躍した。青山学院では理事長・校友会会長などを歴任。

＊2）青山学院発展のために、主に万代氏からいただいたご寄付をもとに発足した「万代奨学金」を充実・増強すべく「万代基金」として再組成したもの。給付型奨学金の充実と教育・研究の質的向上を最重要課題としている。（Ⅱ-1 参照）

＊3）青山学院に係わる方々へのブランドロイヤルティ（愛校心）調査の指標は、10 点をもって満点としている。

「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～

2017 年 11 月に発表した「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」は、2014 年に策定した AOYAMA VISION の「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というヴィジョンはそのままに、150 周年に向けて挑戦する学院の姿勢を示した「4 Challenges」の柱立てに再構成したものです。根底にあるグローバル化推進を継続しつつ、「世界の AGU」を目標に掲げる大学の Action を主軸に、ヴィジョン実現に向けた取組を実行しています。ヴィジョン策定から 5 年の節目を迎えた 2019 年には、「これまで」の実績の振り返りと、今後 5 年間とその先を見据えた「これから」の新たな挑戦や拡充していく取組を掲げ、各設置学校が目指す教育・研究、学校像を提示しました。

Vision 2014-2024

すべての人と社会のために
未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、
その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは、

- リベラルアーツ・深い専門知識
- 他者を敬い違いを受け入れる心
- 人と社会に仕える行い
- Sincerity Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

AOYAMA VISION実現の強い意志を「4 Challenges」に込めて

AOYAMA VISIONは、150周年への更なる飛躍を目指した「青山学院の挑戦」の表明です。
学院の基本使命である「教育」と「研究」、その成果を活かした「社会貢献」、快適かつ最先端の「知的空間の創出」。
これら4つを挑戦の柱に据え、"世界"に羽ばたくサーバント・リーダーを育成するべく、数々のActionを展開していきます。

- 世界と未来を拓く教育
- 世界をリードする研究
- 世界が求める社会貢献
- 世界に誇る知的インフラ

4 Challenges

Mission

建学の精神

青山学院の教育は、
永久にキリスト教の信仰にもとづいて、
行われる。

教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

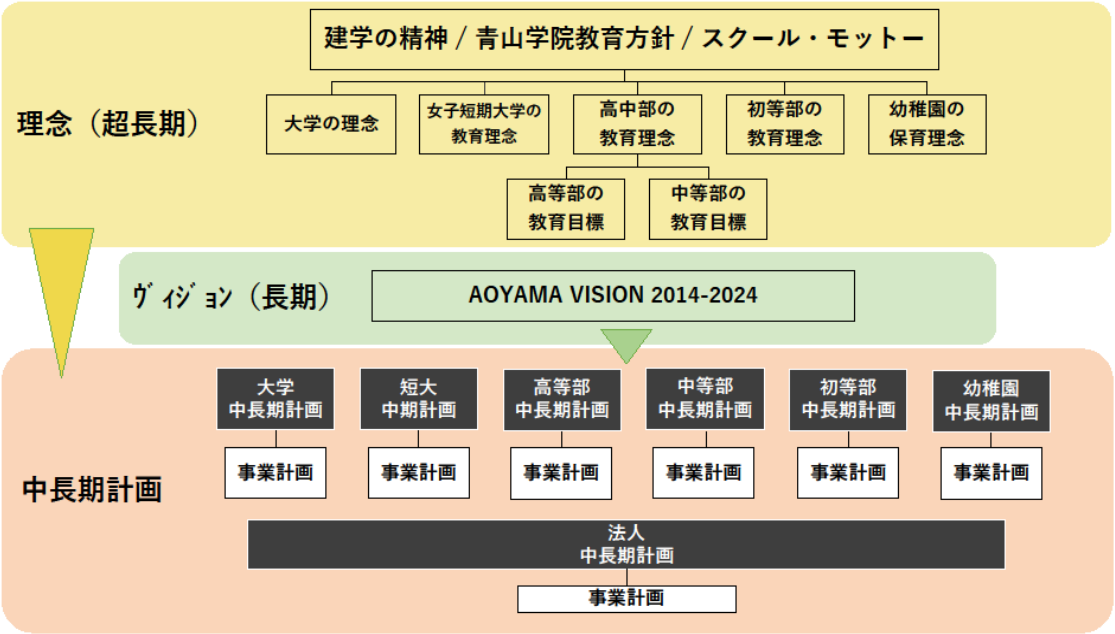
スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
（聖書 マタイによる福音書 第5章13-16節より）

学校法人青山学院 中長期計画（2020-2024）

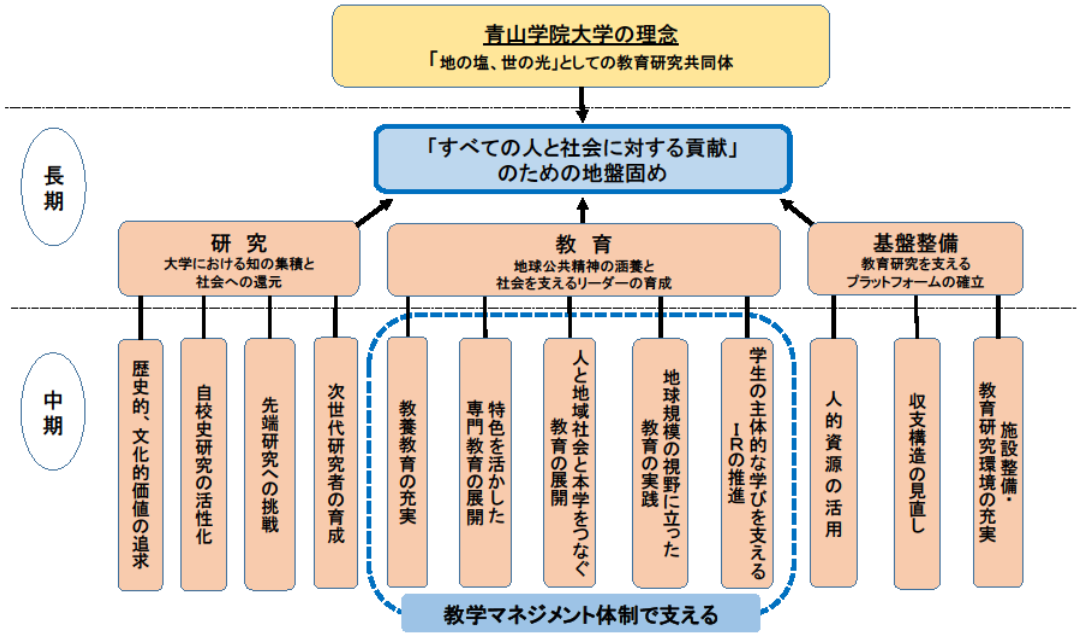
青山学院では、建学の精神に基づいて中長期計画を策定し、それに紐づく事業計画・実行計画を立てて遂行しています。各設置学校がそれぞれの教育理念・目標を活かしつつ、AOYAMA VISION によって学院全体で同じ方向性を持った計画を策定しており、オール青山の精神を体現しています。

【青山学院中長期計画全体図】



※事業計画は、中長期計画を具体化した単年度の計画です。

【大学の中長期計画構成図】



各設置学校及び学院の事業計画

Ⅰ．国際戦略発展のための AOYAMA VISION「4 Challenges」及び基盤整備

昨今の急速なグローバル化や激変する世界情勢の中にあっても、創立以来変わらぬ本学の建学の精神であるキリスト教信仰に基づく教育と国際教育を実践し、国際社会に貢献できる人間の育成を継続していくために、法人と各設置学校の代表で構成される全学国際戦略推進委員会を設置し、各設置学校の教育理念・目標を活かしつつ、学院全体としての国際戦略を策定し推進しています。

2021 年秋には、新たに全学的イベント「Aoyama Gakuin Global Week」を開催し、「一人ひとりが国際的な理解を高め、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会のために、より平和、より公正、より持続可能な未来を目指すウィーク」として、青山学院が長年取り組んできた SDGs に関連する活動を可視化して学内外へ広く発信しました。また、期間中は設置学校を横断したシンポジウムを開催するなど、国際教育・国際貢献の重要性を再認識する機会となりました。

地球規模の課題が山積する現代だからこそ求められるサーバント・リーダーの育成に、今後も学院一丸となって取り組んでいきます。

「Aoyama Gakuin Global Week」専用サイトはこちら

１．世界と未来を拓く教育

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
教育	教養教育の充実	タイトル	全学的な教育基盤の確立と共通教育カリキュラムの再構築
		目的	全学共通教育の目的・機能を再確認し、それを継続的に推進させるための体制・組織を再構築する。
		2022年度目標	①データサイエンスとAI教育（DS/AI）のテストプログラムの実施と正規科目導入の提案 ②ライティング教育のテストプログラムの実施と正規科目導入の提案 ③全学共通教育プログラム全般の見直し作業とオンライン授業（特にハイフレックス授業）の有効活用を継続的に検討・提案することのできる体制整備
	人と地域社会と本学をつなぐ教育の展開	タイトル	地域・社会リエゾン機能の強化：相模原市との地域連携プロジェクト
		目的	相模原市との包括協定に基づき進めてきた連携実績を踏まえ、教育研究活動と地域連携を体系化し発展させていくことを目的とする。また、特に新たに設置する社会連携推進機構及び社会連携を推進するための事務部署である社会連携課の中核となる取組の立ち上げと推進を図る。
		2022年度目標	2022年度新たに発足予定の社会連携推進機構及び社会連携課の取組の相模原キャンパスにおける立ち上げと推進を図ることを目標として、①さがまちコンソーシアム参加大学との協力による相模原市・大学間のプラットフォーム形成の支援、②相模原市との定期的な連携企画の立案と実施を行う。
		タイトル	シビックエンゲージメントセンターの開設と充実
		目的	本学の学生・教職員が、多様化する市民協働事業を通して、サーバント・リーダーとして成長することを目的としたセンターの開設及び充実を目指す。（2022年4月センター開設）
		2022年度目標	①ボランティア活動及び市民協働活動の強化 ②青山スタンダード支援の強化（サービス・ラーニングの授業支援6科目、1講義科目の支援） ③学内外の連携強化（研究会の実施） ④研究の推進 ⑤活動報告書から、研究報告等も記載する紀要へ
		タイトル	リカレント教育センターの設置と充実
		目的	リカレント教育への社会的要請の高まりに応えるため、本学におけるリカレント教育の企画・実施運営並びにこれらに必要な調査研究・情報発信を担う常設の組織として、リカレント教育センターあるいはそれと同等の機能をもつ組織の設置及び充実を目指す。
		2022年度目標	リカレント教育推進に向けた学内基盤を整備する。

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
教育	地球規模の視野に立った教育の実践	タイトル	海外大学からのインターン生受入れ
		目的	海外の大学から本学大学院に入学する学生の獲得を目的とし、理工学部では、これまでにタイのチュラロンコン大学からインターン生を受け入れてきた（2013年度～）。このインターン生は、理工学部の研究室に2ヶ月程度滞在し、実践を通じて学ぶとともに、本学の学生とも交流する。本案件は、このインターン生や短期研究生の受入れを他のアジア諸国や、テキサス工科大学等の欧米の大学に拡大していくためのものである。
		2022年度目標	タイと米国の大学から16名のインターン生を受け入れる。
		タイトル	国際認証（EFMD Accredited – MBA ※）の取得 ※）世界トップビジネススクールの認証機関であるThe European Foundation for Management Development(EFMD)が発行する国際認証（旧名称EPAS）
		目的	我が国のトップビジネススクールとして、グローバル人材を育成できる教育・研究組織であることを世界に証明する。それにより、国際ランキングの向上、優れた海外のビジネススクールとの強固なネットワークの構築、東アジア以外からの留学生の増加を実現する。
		2022年度目標	EFMD Accredited-MBA の取得と活動開始の準備を行う。
	学生の主体的な学びを支えるIRの推進	タイトル	IR機能の整備
		目的	データに裏付けされた教育課程等の点検・評価を行い、改善・改革・新たな取組を行うため、IR機能を整備する。
		2022年度目標	①恒常的なIR組織構築のための趣意書（概要）及びロードマップの作成 ②分析手法・例示等をとりまとめた事例集の作成
		タイトル	「TOEIC L&R IPテスト」を活用した学生の自己振り返り可能な環境の構築
		目的	学生自身が自らの学修成果を把握し振り返ることができる機会を提供し、それによる自己発見を促す環境を整備することを目的とする。また大学はこれらのデータを蓄積し、データベース化することで学生が段階的かつ恒常的に自らの学修成果を振り返ることができる環境を構築する。
		2022年度目標	前年度の実施体制やテスト結果を精査した上で、12月を目途に当該テストを実施する。前年度の結果から得られたデータの分析や活用方法、学生へのフィードバック方法をベースとし、今後に向けたより効果的な学修成果の振り返り手法を検討し、教育の質向上に資するための整備を進める。

高等部		
中長期計画	事業計画	
教育改善	タイトル	ICT教育環境整備・タブレット端末機器導入（生徒1人1台端末導入計画）
	目的	ICT機器とその環境整備により、生徒の自己教育力、表現力、創造力を育成し、個々の学習ニーズに対応する。 全校生徒1人1台の端末の導入により、生徒の個に応じた学び及び探究的な学びを行うための学習基盤を整え、従来の教育の質を更に向上させ、生徒の学びの深化につなげる。
	2022年度目標	①2022年度新入生への端末導入及び2023年度入学生への端末導入計画策定 ②全校生徒1人1台環境における端末の管理・運用、利用者支援体制の確立
	タイトル	新カリキュラム策定を通して探究的な学びの推進に向けた高等部授業改革
	目的	2022年度にスタートする新カリキュラムの策定を通じ、高等部の教育プログラム全般の改革を図る。これまでの伝統的な授業から、「探究的な学び」をキーワードに、自ら考え、人と協働し、発信していく主体的な学びを起こす授業への転換を図り、青山学院の一貫教育をより有効に活かし得る高等部の教育を構築する。
	2022年度目標	①各教科の観点別評価を含む評定、育てたい学力の明文化完成 ②探究的な学びに即した評定分布基準の調整と内部進学制度改革の具体案の策定 ③自由選択科目の制度の策定

中等部		
中長期計画	事業計画	
教科教育の充実	タイトル	生徒1人1台タブレットPCの導入
	目的	生徒1人1台タブレットPCを導入することにより、協同学習、情報検索、個々の理解度に応じた演習、実験・実習の記録等を容易に行えるようにし、教科における生徒の理解度を上げ、興味・関心を高める。
	2022年度目標	2022年度新一年生（76期）の生徒1人に1台ずつタブレットを導入し、運用する。
新しい海外プログラムの実施	タイトル	中等部中国訪問プログラムの実施
	目的	現在実施しているオーストラリアホームステイ（夏期）、韓国（梨花女子大付属中）学校訪問、フィリピン訪問の各プログラムに加えて、新たな国際交流プログラムとして、中国訪問プログラムを企画・実施し、生徒に多様なグローバル体験の機会を提供するとともに、学校間の交流の活性化を図る。
	2022年度目標	新たな国際交流プログラムとして、中国訪問プログラムを企画し、実施する。

初等部		
中長期計画	事業計画	
ICT教育の推進	タイトル	プログラミング学習のカリキュラム策定
	目的	プログラミングをツールの1つとして使いこなし、問題を解決できる人材を育てることを目標にした青山学院初等部独自のプログラミング学習（2021年度導入）の2年目、3年目のカリキュラムを策定する。
	2022年度目標	4年生以上を対象とするプログラミング学習の5・6年生用カリキュラムの検討及び5年生用カリキュラムの実施を行う。また、4年生用カリキュラムの再検討を行う。
	タイトル	家庭学習を含めた1人1台学習端末時代の学び方の検討
	目的	3年生以上で1人1台の学習端末所持が実現した初等部において、家庭学習を含めた形で機器活用のメリットを活かした学習方法の検討を行う。
	2022年度目標	学習端末を用いたAI（人工知能）ドリルの検討、及び英語音読トレーナーを用いた効果の測定を行う。
その他	タイトル	空き教室（旧コンピュータ室）の有効活用検討
	目的	現在空いている教室を有効に活用することで、児童の個別学習・少人数指導を効果的に進める。
	2022年度目標	タブレット等個別のOwnDevice化（1人1台学習端末）に伴い、コンピュータ室として使用しなくなった空き教室を効果的かつ有効に活用する。

幼稚園		
中長期計画	事業計画	
キリスト教保育を通した、 神と人とに仕える人間形成	タイトル	SDGsを知り、自分達にできることから取り組む
	目的	園児一人ひとりが、国境を超えた全ての国の人たちと共に、より良い社会環境を作り出す人となることを目指した保育を行う。
	2022年度目標	2022年度の保育カリキュラムにSDGsの取組の項目を取り入れ、日々の保育に於いて展開していく。

学院		
中長期計画	事業計画	
自校史教育の推進	青山学院の歴史は、人と社会に貢献し、弛まぬ奉仕を続けてきたサーバント・リーダーたちの歴史でもある。その歩みを振り返り、志を次世代に引き継ぐため、青山学院大学附置青山学院史研究所における自校史研究や年史編纂の取組の成果を、各設置学校における自校史教育の推進につなげる。	
学校間連携の強化	幼稚園から大学・大学院までを擁する本学院の特性を活かして、支援先の子どもたちと交流する「フィリピン訪問プログラム」に代表される設置学校を横断した全学的な教育活動や、高大連携をはじめとする設置学校間の取組等を一層強化し、発展させる。更に、卒業後も生涯にわたっていつでも青山学院で学ぶことができる社会人向け教育プログラムを充実させ、これらを包括した「青山学院の人生一貫教育」を実現する。	
校友と学院・在校生による連携強化	校友による在校生へのキャリア教育や就職活動支援、学校行事や課外活動のサポート等、各設置学校における教育活動の様々な場面において、本学院を支える存在として校友が活躍している。また、全学的イベント「Aoyama Gakuin Global Week」への校友会の参加、学院から校友に向けた広報紙やメールマガジンによる情報発信の充実等、校友と母校をつなぐ施策も展開している。今後も校友との連携を一層強化し、「オール青山」の絆の結束力をもって、学院の更なる飛躍を目指す。	
その他	タイトル	キリスト教文化発信の企画の実施、及びそれに伴うデジタル化の推進
	目的	キリスト教文化発信のため、コロナ禍の状況を鑑みながらその時点で可能な企画を実施し、キリスト教文化の教育・研究に資することを目的とする。
	2022年度目標	諸行事・諸企画を通してキリスト教文化を内外に広く発信し、ポストコロナを見据えたキリスト教活動の在り方を検討する。またデジタル環境を含めた学院創立150周年を目指した諸環境・諸企画の整備を行う。

２．世界をリードする研究

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
研究	自校史研究の活性化	タイトル	自校史研究の活性化（『青山学院一五〇年史』編纂）
		目的	自校史に関する研究機能を強化するため、大学に学院史研究所を設置する。また、同研究所において、これまで青山学院が果たしてきた歴史的役割に関する調査・研究を行い、その成果を発信すること、そして設置学校での授業等に活用することで、本学におけるブランド力の向上および校友の帰属意識の涵養を目指す。
		2022年度目標	1.青山学院史研究所の主な任務として、『青山学院一五〇年史』編纂事業を展開する。年史編纂事業としては、以下の3点を到達目標とする。 ①『青山学院一五〇年史』通史編Ⅰの刊行 ②『青山学院一五〇史』通史編Ⅱの刊行準備 ③『写真に見る青山学院150年』の刊行準備 2.「青山学院大学の歴史」等の授業支援を行う。
	先端研究への挑戦	タイトル	本学のSDGs（国連が採択した「持続可能な開発目標」）に対する研究強化への取組
		目的	SDGsと関連する研究を支援することにより、本学の研究面でのレベルを向上させ、教育に還元することにも努め、SDGsに取り組む「世界のAGU」としての認知度を高めていく。
		2022年度目標	①大学webサイトにSDGs関連研究課題を整理して公開する。 ②総合研究所、大学の刊行物にSDGs関連記事を掲載する。 ③SDGsをテーマとするシンポジウムを開催し、学内外に周知を図る。 ④SDGs関連研究課題を積極的に募集し、その取組を研究推進につなげる。
		タイトル	ジェロントロジーの学際研究及び教育・啓発事業
		目的	ジェロントロジー研究所でこれまで行ってきた高齢者に関わる諸問題を解決する学際研究・国際共同研究を更に発展させるとともに、ジェロントロジーの教育事業、社会啓発事業を行う。これらの取組を通じて、本学のジェロントロジー分野での存在感を高め、ジェロントロジーに通じる若いサーバント・リーダーの育成につなげる。
		2022年度目標	①プロジェクトメンバーによるジェロントロジー研究及び研究連携を促進し、成果発表等を50件以上行う。 ②青山スタンダード科目「ジェロントロジーと諸科学」を開講し、15回の授業を実施する。 ③活動成果を取りまとめて公開する。
		タイトル	ヘルスイノベーション学術ネットワークの基盤形成
		目的	次世代ウェルビーイングプロジェクトで培ってきた医工学をヘルスイノベーションに昇華させるべく、データ収集基盤を強化し、有機的な学際連携を創造することで、ヘルスイノベーションの学術ネットワークを形成する。
		2022年度目標	①プロジェクトメンバーによる研究及び連携を深化させて学術論文等の研究発表成果を50以上あげる。 ②活動成果を展示として出展する。 ③活動成果を年報として公開する。

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
研究	先端研究への挑戦	タイトル	体力・健康の維持増進や運動パフォーマンスの向上のための新しい運動処方の研究開発に向けた基盤形成
		目的	「身体運動を介した予防医学的側面」「全ての人に対する新たな運動処方」を研究・発信していくことで、SDGsに掲げられた「すべての人に健康と福祉を」の目標を達成していく。
		2022年度目標	①身体運動を対象とした基本的な研究基盤を引き続き整備するとともに、「誰でも簡単に」「楽しく」「どこでも」「努力せず」体力や運動のパフォーマンスを効果的に向上させたり、健康を維持・増進させたりできる方法を開発し、その方法が有効に働く仕組みの解明を継続して進める。 ②大学・大学院の心身の機能に関する演習を充実させる。 ③心身の機能に関する研究ミーティングを定期的に実施する。
		タイトル	革新技術と社会共創研究所の設置
		目的	「技術と社会変革」をテーマとする研究組織を大学に設置する（2021年8月開設）。同研究所において、科学技術の発展が人間社会に与える影響等に関する調査・研究を行い、その成果を発信することで、来るべき社会の問題解決や未来を担う若者の育成に貢献する。
		2022年度目標	①BIT VALLEY2022への登壇・協力 ②インターネット関連企業との連携の実施 ・ビジネスパースンを対象にしたセミナーの実施（計6回） ・学生対象イベントの実施（計6回） ③各研究課題の成果発表(書籍、論文、学会発表、講演等を10件以上） 上記を到達目標とするが、インターネット関連企業との協議により、青山学院の全ての人たち（児童・生徒・学生・教職員）に創造的な学びを提供する場の構築（仮称：Aoyama Creative Learning Lab）についても積極的に試みる。

３．世界が求める社会貢献

サービス・ラーニングや社会人教育、地域連携等、本学における教育・研究の取組の多くは、社会貢献につながっています。その中でも、特に社会貢献に大きく関わる事業計画について、本書では以下のページに掲載していますのでご覧ください。

P.6「地域・社会リエゾン機能の強化：相模原市との地域連携プロジェクト」（大学）
P.6「シビックエンゲージメントセンターの開設と充実」（大学）
P.6「リカレント教育センターの設置と充実」（大学）

【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る取組例】

学院	●幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	●日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ協定に基づく活動 ●地方自治体との各種協定に基づくボランティア活動、地域振興支援 ●シビックエンゲージメントセンターによる各種活動（渋谷区におけるこどもテーブル拠点事業、フィリピン・カンボジア等における国際協力、東北地方・熊本県における復興支援活動、ボラサポ制度の運用）及びサービス・ラーニングに関する科目への支援 ●サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動 ●青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「サービス・ ラーニングとしてのボランティア活動」、「ボランティア・市民協働論」
高等部	●東日本大震災の被災地の学校との交流 ●横浜寿町での炊き出し等支援 ●東ティモール・スタディ・ツアー（ケーススタディと現地調査） ●知的障がい支援施設「えびす青年教室」への訪問、交流 ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
中等部	●養護老人ホームでの奉仕活動 ●震災被災者支援募金活動 ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
初等部	●滋賀県にある止揚学園への短期留学 ●社会福祉法人鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問 ●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
幼稚園	●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援

４．世界に誇る知的インフラ及び基盤整備

大学			
中長期計画		事業計画	
長期	中期		
基盤整備	人的資源の活用	タイトル	職員対象SD（Staff Development）の実施
		目的	「青山学院の求める人材像」に基づき、自らの役割を果たしてその成果を大学に還元できる職員を育成するために、SDを通して社会や組織への貢献度の高い業務や企画等に主体的に取り組む組織の文化や風土を醸成する。業務の効率化を図り余力を生むことで職員の主体性と創造力を育み、組織文化醸成の基盤づくりを目的としたテーマで研修等を実施する。
		2022年度目標	①社会や組織への貢献度の高い業務や企画に主体的に取り組む組織文化の醸成に資するテーマでSD研修会を実施する。 ②SD研修を体系的に整理する。
	施設整備・教育研究環境の充実	タイトル	新図書館の機能・学習空間の充実
		目的	利用者の学習・研究・教育支援を総合的に実現することを目標とし、「学生本位の図書館」という視点に基づく学習空間や支援の提供、本学の教育研究基盤を支える学術資源の拡充、研究活動に資する環境の整備等を具現化するための実行案を作成する。 〈参考〉大学新図書館の建築工事に関する計画は、P.15「大学新図書館棟建築計画」を参照
		2022年度目標	①「学生本位の図書館」という視点に基づき、建築計画に配置されたICT設備の選定 ②2024年4月に更改予定の図書館システムの選定

中等部		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	新教務システムの導入
	目的	新教務システムの導入により、生徒情報の共有、事務処理の簡素化による校務の軽減を目指す。
	2022年度目標	年間の教務スケジュールに則って、新しい教務システムでの運用を開始する。

幼稚園		
中長期計画	事業計画	
自然界の循環を感じる園舎建設・園庭づくり	タイトル	キャンパス再開発　幼稚園新園舎建築
	目的	キャンパス再開発の計画の中で新園舎を建築し、本園の保育の特徴を活かし、保育のねらいが達成できる、より豊かな環境を整える。
	2022年度目標	8月には設計について合意し、その後は細部の設計と最終設計図書に関する報告を定期的に受け、確認作業を行う。2023年3月に施工者との契約を取り交わす。

法人：人事に関する計画		
中長期計画	事業計画	
サーバント・リーダーとしての職員の育成	タイトル	AOYAMA VISIONの遂行に基づき、学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーたる職員の育成
	目的	本学院で学んだ学生等がサーバント・リーダーとして社会で活躍できるように、まず職員自らがサーバント・リーダーとなれるよう育成する。加えて学校職員として、自ら成長し、学院の発展に寄与していけるような人材を、人事部能力開発支援課が実施する研修プログラムを通して育成する。
	2022年度目標	AOYAMA VISIONの遂行に基づき、青山学院の発展に寄与できる人材を育成するため「職員のサーバント・リーダー育成研修プログラム」を実施する。これを土台として学校運営を担う職員に求められる知識・スキルを身につける研修や大学SDの取組にも対応した研修を行う。具体的には、「職員の能力向上プログラム」において様々なテーマの研修を行うとともに、内製にて「新任職員研修」や「メンター・メンティ研修」、「考課者研修」、「階層別研修」を実施する。
SDGsへの取り組み	タイトル	障がい者雇用の拡充
	目的	障がいを持つ方にも活躍の場を提供し、社会的義務を果たすと同時に新経営宣言「Be the Difference」のもと、あらゆることの多様性を認め、一人ひとりの個性を大事にする青山学院を体現する。
	2022年度目標	法定雇用率を安定的に充足できるよう、新規採用と定着支援を行っていく。従来からの定着支援に加え、必要に応じて公的支援制度等も併せて対応し、より長期に安定的に働けるよう障がいを持つ方と受け入れる所属部署をサポートする。

法人：施設に関する計画		
中長期計画	事業計画	
キャンパス再開発計画	タイトル	大学新図書館棟建築計画
	目的	大学新図書館は、「研究図書館」としての機能を実現したうえで、「学習図書館」としての機能を拡充させ、「学生が学び、育つ図書館」（日本で最も学生が“成長”できる図書館）を目指す。キャンパス生活の“ホーム”として学生が集う仕組みと青山学院ならではの先端的なサービスを備えつつ、学生のニーズと社会の変化に対応していく“進化する”図書館を実現する。 〈参考〉大学新図書館に関する計画は、P.14「新図書館の機能・学習空間の充実」にも掲載しています。
	2022年度目標	2022年度は新図書館棟の躯体工事を完了し、書架・什器・備品及び視聴覚設備等の製品を決定する。
大規模天井改修計画	タイトル	大規模天井落下防止対策
	目的	震災に於いて大規模天井の落下等で甚大な被害が発生したことを起因に、2014年4月に吊天井に対する建築基準法の改正があり、文部科学省から落下防止対策を施すよう通達が出された。これを受けて、学院内の建物に於いて対象となる建物について天井等の改修を順次計画し、本学において安心・安全を確保する。
	2022年度目標	2022年度は2件の天井改修工事（大学17号館本多記念国際会議場、相模原キャンパスF棟ピロティー）を計画する。

Ⅱ． 新経営宣言の実現

１．万代基金の設立による財政基盤の充実・整備

法人		
中長期計画	事業計画	
財源確保	タイトル	「万代基金」構想の周知と寄付金大幅増額の実現
	目的	「万代基金」の大幅増額により、「フィナンシャル・エイドの充実」、「教育研究資金の充実」、「財政基盤強化（万代基本基金）」を推進する。
	2022年度目標	「万代基金」の周知と寄付金獲得に向けて、万代基金委員会を運営しながら各種広報・募集活動を実施する。

Ⅲ． その他の事業計画

中等部		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	中等部創立75周年式典及び記念誌の発行
	目的	中等部の75年を振り返り、これからの中等部の方向性を共有する。
	2022年度目標	①75周年記念式典の開催（2022年12月10日予定） ②記念誌の原稿収集・整理完了（2023年度発行予定）
法人		
中長期計画	事業計画	
その他	タイトル	学院創立150周年記念事業の計画策定及び実施
	目的	2024年11月に学院創立150周年を迎えるにあたり、式典その他の記念事業について、計画を策定し、実施する。
	2022年度目標	学院創立150周年記念事業の全体計画について、2021年度に発足した創立150周年記念事業委員会は、以下を実行する。 ①準備委員会より答申される「全体構想」を協議し、決定する。 ②実行委員会を発足させ、主たる事業について実行計画を立案する。 ③②で立案された各実行計画を取り纏め、全体計画として決定する。
	タイトル	青山学院未来構想の策定
	目的	2024年11月に迎える学院創立150周年を機に、キリスト教信仰に基づく建学の精神を礎とした新たな青山学院の未来構想を掲げ、学院の更なる飛躍を目指す。未来構想は、数十年の期間で青山学院の未来像・方向性を示す「超長期ヴィジョン」と、超長期ヴィジョンを背景とする160周年までの10年間の「長期目標（AOYAMA VISION 160）」、長期目標達成のための前・後期各5年の「中期計画」の3層構造を想定しており、2021年度に構築した体制・ロードマップに基づき、順に策定していく。
	2022年度目標	①青山学院未来構想の「超長期ヴィジョン」案を策定する。 ②青山学院未来構想の「長期目標（AOYAMA VISION 160）」案の策定に着手する。（AOYAMA VISION 160検討委員会を発足し、検討を開始する。2023年度完成予定）

〈補足事項〉P.6 から P.16 の表記について

1. 【学院】【法人】
   法人執行部及び本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に関わる計画を【学院】、「経営・管理」に関わる計画を【法人】と表記しています。
2. 【大学】
   大学を構成する各部署・附置機関、大学院、専門職大学院が行う事業計画については、全て【大学】と表記しています。

本書に掲載している計画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、内容を変更あるいは中止することがあります。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth,　The Light of the World

【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院　2022 年度事業計画書

2022 年 3 月 24 日 理事会承認（2022 年 4 月発行）

学校法人 青山学院　〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

〈問い合わせ先〉総合企画部　Tel.03-3409-6384

〈学院ウェブサイト〉http://www.aoyamagakuin.jp/